

「とある日の幻想殺し」

イラスト:Ac

初版コミックマーケット72

黒歴史はここから始まった、的な一冊目です。

禁書本を作ると決めた時、頭の中にあっただのは『木原神拳』は理論のみで完成されたのか? という事でした。「木原数多も科学者であるならば、理論の正当性を検証してから使うはず」という訳で、その検証のための実験体となるオリキヤラ「加治方耶」が出来上がりました(初版では「舵方耶」)。※左記イラストは「Ac」様によるものです。

当然、加治の能力はベクトル操作能力。ただ強能力とした時、ベクトル操作以外にどんな戦い方をするか、一方通行との差別化をどうするかというので、大気のベクトルを操作して攻撃する通称、空気パンチという技を持たせました。理論的には正直深く考えていませんが、中二病かつ真っ直ぐな性格の加治にはびったりだったかと思えます。

「〇冊中唯一」とある日の学園都市」という続編がありますが、実は要望がなければ描かれる事はありませんでした。続編がなかったら生死不明だったので、ホント助けられてよかったね、ほーくん……。

ちなみに加治が「学園都市最強」を目指したのは単純に力を証明したいだけではなく、それによって、彼女である御凧司との関係を彼女の親に認めさせるといった目的があったのですが、その辺を描き切れなかったのがちよつと心残りだったりします。

